

ネイパルクッピー・ジュニアキャンプ

■ 事業のねらい

自然の家を活用し、子どもたちが寝食を共にしながら学校に通う活動をとし、自主性、主体性、協調性を養うとともに、基本的生活習慣の定着を図る。



- 実施日 平成23年11月30日(水)～12月3日(土) 3泊4日
- 参加対象 川沿小学校、錦水小学校、日吉小学校の4年生～6年生
- 参加実績 参加者： 9名(川沿小学校)
小4=1名、小5=3名、小6=5名
男子=6名、女子=3名
- 備考 活動場所：北海道立常呂少年自然の家

1 事業実施の背景



インターネットやオンラインゲームの普及、携帯メール等が現代人の生活に全国的に深く浸透し、夜型偏重や不規則な生活リズムに慣れてしまうなど、環境の変化により子どもたちに悪影響を与えることが懸念されている。そのため本道においても早寝・早起き・朝ごはん運動が展開されるなど、生活習慣の見直しが求められている。心身バランスのとれた健康な身体づくりのためにも、基本的生活習慣の定着は重要課題であり、特に、子どもの頃からよりよい生活習慣への意識付けがなされることが肝要であると考える。

本事業は、自然の家での生活を通じて子どもたちの主体性や自主性を育みつつ、自ら生活の計画を立て、基本的生活習慣の定着と良好な生活習慣への意識付けを目的としたものである。

2 プログラムデザイン

	6:00	7:00	7:30	8:00	8:00・・・15:30	16:00	17:00	18:00	18:30	19:00	20:00	21:00	21:30	22:00
11/30(水) 1日目	学校生活					受付	開校式	レクリエーション	夕食	計画作成	各自活動		就寝準備	就寝
12/1(木) 2日目	就寝	起床	朝食	登校	学校生活	帰所 各自活動	ミーティング	各自活動	夕食	各自活動	ナイト ハイク	各自活動		就寝準備 就寝
2(金) 3日目	就寝	起床	朝食	登校	学校生活	帰所 各自活動	ミーティング	夕食づくり～夕食		各自活動		就寝準備	就寝	
3(土) 4日目	6:00	7:00	7:30	8:00	8:30	9:00	9:30							
	就寝	起床	朝食	部屋清掃 片付け	ふりかえり 発表	閉校式 解散								

■ アクティビティについて



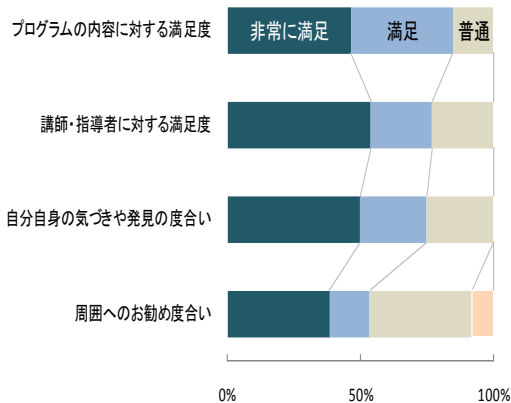
■ 意図

- 自然の家のルールに則った生活を送ることで、規則正しい生活を意識させ、基本的生活習慣を身に付ける。
- 子どもたち自らが活動計画を作ることによって、主体性や自主性を育みながら、よりよい生活習慣の意識を持たせる。
- 自然の家の活動を通じて、集団生活における協調性を身に付ける。

■ 留意事項

- 子どもたちが考えた活動計画に沿ってしっかり生活できるよう支援する。
- 計画づくりは子どもたちに任せ、時間配分などを考えさせて、有意義な計画になるよう指導する必要がある。

3 活動の様子



■ 当日の様子

1日目、参加児童の大半が、2回目の参加であり、大変楽しみにしていた様子だった。計画表作りの時間には、趣旨の説明を受けた後、各自作成した。

2日目、下校後は宿題や自学自習に取り組み、互いに教え合う様子も見られた。ナイトハイクは気温が低めであったが、元気に参加。熊よけのために、歌を歌いながら暗闇の森を進んだ。途中、懐中電灯を消し、月や星の光だけで観る夜の森の世界を体験した。

3日目、下校後の学習を終えた後、夕食はカレーライス作りに挑戦した。途中、様子を見に訪れた担任の先生も加わり、出来上がったカレーを味わった。夜は自由交流の中、参加者同士での語らいを楽しんだ。

最終日、部屋の片付けや掃除を行い、部屋点検後、4日間の感想を全員で発表しあった。参加児童たちは、計画通りに活動を進めようとする意識が高かったため、充実したキャンプを体験できたようだ。各自、達成感を感じての解散となった。

■ アンケートに寄せられた声

- 「みんなと楽しく風呂に入ったり、カレーもおいしかった。」(小5男子)
- 「6年生最後でいい思い出ができてよかった。」(小6女子)
- 「計画や大切な約束を守れ、10時に寝ることができた。」(小5男子ほか)
- 「部屋の掃除やふとんをたたむのをきれいにできてよかった」(小6女子)
- 「ナイトハイクは、暗いところでも見えることとか、自分の知らないことがわかった」(小6男子)

4 事業評価



■ 参加者の変容【IKR調査結果】

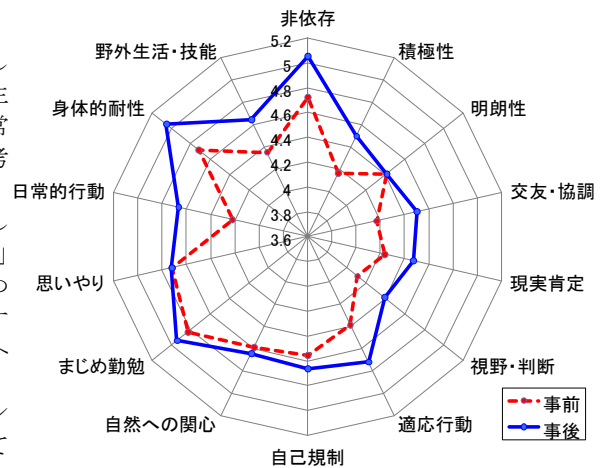
全体平均で0.23ポイントの向上がみられた。「日常的行動」が最大の0.44ポイントの向上を示し、「非依存」「積極性」「交友・協調」「適応行動」「身体的耐性」のそれぞれが0.33ポイント向上した。その他の項目でも平均以上の向上が見られたが、「明朗性」と「思いやり」には変容は見られなかった。

■ 結果の分析・考察

継続的に早寝早起きの規則正しい時間で生活したことが、良好な生活習慣への意識付けとなり、「日常的行動」に高い向上が見られたと考える。

また、自らの計画に沿って活動しようとする高い意識が、「非依存」「積極性」「適応行動」の向上につながったと考えられる。寒い中でナイトハイク体験も「身体的耐性」への自信を深めさせた。

「交友・協調」の向上は、キャンプ中の集団生活や活動が充実していたことを示している。



5 まとめ



■ 成果

- 事業の趣旨を理解し、先を見通した計画を作ることができた。
- 計画に基づいて行動をとることができたため、合理的かつ有効に時間を使って生活する意欲が高められた。
- 仲間と一緒に計画を全うしようとする意識の芽生えが、活動を活性化させ、集団生活を良好に保つことができた。

■ 課題・今後の方向性

- 参加経験者の積極性やリーダー性を生かし、活動場面を保証するためのプログラムやアクティビティを工夫する必要がある。
- 事業の在り方について、学校と一層連携を図る必要がある。
- 当施設と学校間の地理的条件上、事業のための交通手段を確保していく必要がある。